

## 平成30年 第11回教育委員会会議

### 1 日 時

平成30年9月11日（火）

開会 15時00分

閉会 15時31分

### 2 場 所

教育委員会室

### 3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、横山真紀委員、眞鍋知子委員、西川恒明委員  
新家久司委員

### 4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、藤村一志教育次長、升屋和夫教育次長、堀田葉子教育次長、  
近岡守教育次長兼保健体育課長、岡崎裕介庶務課長、杉中達夫教職員課長、  
塩田憲司学校指導課長、篠原恵美子生涯学習課長、田村彰英文化財課長

### 5 議案件名及び採決の結果

議案第26号 室の廃止について（原案可決）

議案第27号 平成31年度石川県立学校第1学年入学者の募集定員について  
（原案可決）

議案第28号 募集定員に関する規則の一部改正について（原案可決）

議案第29号 人事異動について（原案可決）

### 6 報告案件

いしかわ産業教育フェア2018の概要について

### 7 審議の概要

#### ・開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

#### ・会議の公開・非公開の決定

議案第29号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する  
法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

#### ・質疑要旨

以下のとおり。

## 議案第 26 号 室の廃止について（岡崎庶務課長説明）

議案第 26 号、「室の廃止」についてご説明いたします。資料は 1 ページをお開き願います。

「1 提案理由」は、皇太子殿下のご臨席を賜り、8 月の 4 日から 10 日にかけて、珠洲市で開催されました「第 17 回日本スカウトジャンボリー」の終了に伴いまして、県の業務であった会場整備や開催体制への支援が終了したため、平成 29 年 4 月 1 日に設置されました「日本スカウトジャンボリー開催支援室」を廃止するものでございます。

具体的には、「3 告示案」のとおり、次のページに添付しております告示を、県公報に掲載するものであります。

「4 施行年月日」は、9 月 30 日といたします。以上で議案 26 号の説明を終わります。

### 【質疑】

質疑なし。

（田中教育長）

採決を行う。

（各委員）

異議なし。

議案第 27 号 平成 31 年度石川県立学校第 1 学年入学者の募集定員について  
(塩田学校指導課長説明)

それでは 3 ページの議案第 27 号、平成 31 年度石川県立学校第 1 学年入学者の募集定員につきまして、お手元の資料によりご説明をいたします。

1 の提案理由は、平成 31 年度における石川県立学校第 1 学年入学者の募集定員を定める必要があるためでございます。2 の根拠法令につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条」でございます。3 の内容につきましては、4～6 ページに示してございます。

では、4 ページをご覧ください。初めに、昨年度（平成 30 年度）の経緯からご説明をいたします。右ページの参考 (1) 「中学校卒業（予定）者数の動向」の太線で囲んだ部分の左横にあります、30 年 3 月の欄をご覧ください。昨年度は、県全体で 498 人の減ということでありましたので、県南・県央・県北それぞれの中学校卒業者の減数などを踏まえて、(2) にありますように、公立高等学校全体で募集定員 360 人の減、学級で 9 学級の減としたところであります。

具体的には、その下の (3) にありますように、県南地区で 3 学級減、県央地区で 3 学級減、県北地区で 3 学級減、としたところであります。

次に、来年度、平成 31 年度の「公立全日制高等学校」の募集定員につきまして、ご説明をいたします。左ページをご覧ください。(1) には、「募集定員の基本的な考え方」を示してありますが、「活力ある教育環境の維持・確保、地域の実態や生徒の志願状況、私立高等学校との関連などを総合的に考慮し、決定する」ということであります。

(2) の「募集定員及び学級数」、(3) の「地区別学級数増減の予定学校」についてであります。平成 31 年 3 月の中学校卒業予定者は、1 万 696 人で、平成 30 年 3 月に比べて、全県では 122 名の増加、県南、県央、県北の地区ごとの増加については、右ページの参考 (1) の太枠にありますように、各地区ともに 40 名前後の増加となっており、その中に私立学校等へ入学する生徒がいることも考慮して、3 地区全てにおいて、増減なしといたします。

従いまして、全県としましては、左ページの (2) にありますとおり、全日制高等学校全体で増減なしの 7840 人、学級数でも増減なしの 196 学級としたいと考えております。

次に、同ページの下をご覧ください。2 番の「定時制高等学校」、3 番の「通信制高等学校」につきましては、それぞれ、平成 30 年度入試と同数の募集定員といたします。

4 番の「特別支援学校」につきましては、義務教育である小学部・中学部を除いた幼稚部及び高等部について、入学希望者の実態を十分勘案し、入学希望者全員を受け入れることが出来るように、338 人＋（専攻科）の若干名の募集定員といたします。

5 番の「県立金沢錦丘中学校」につきましては、平成 30 年度入試と同数の募集定員といたします。

5 ページには、学校別の、募集学級数と募集定員をまとめてあります。前年度と変更がある箇所を太線で囲んで示しておりますので、参考にしていただきたいと思います。

なお、6 ページには参考資料として、7 月に報告いたしました各高等学校の推薦枠 (%) を基に、今般定めます募集定員を基に推薦人数をまとめてございます。

以上、ご審議をよろしくお願いいたします。

(田中教育長)

それではご審議いただきたいと思います。来年度はそういうことなのですが、右側の参考の(1)の32年3月、33年3月、34年3月の所を見ていただきますと、来年、次の年度は▲525人、その次の年度は▲296人、その次の年度は逆に280人の増という変動期に入ります。それぞれの地区で見ると、県南が135人の減、43人の減。今度は戻る感じで、131人の増。県央については、266人減って、216人減って、今度は201人戻る。県北については一定してしまっていて、124人の減、37人の減、さらに52人の減と、こんな状況でございます。

32年は500人強で、30年3月とよく似た数字になります。30年の3月は、今年度は9学級、募集定員を減らしたわけですけれども、32年3月、次の年度、今回お諮りしている次の年度は、9クラスから10クラスを減じる必要があるということは事実かと思えます。補足させていただきました。

#### 【質疑】

(新家委員)

全然異議とかではなく、参考までに教えていただきたいのですが、募集定員、平成30年度の3月で7840人、来年も変わらない。これは当然だと思いますけれども、定員と充足入学者数というのが、もし分かれば参考までに教えていただきたいと思えます。

(金田委員)

今年入学した生徒が分ればいい。

(新家委員)

そうですね。定員と入学者数という意味です。

(塩田学校指導課長)

募集定員は、今年度の場合は7840名のところ、入学者数は7230名でございました。率は92.2%程度かと思えます。

(田中教育長)

最終的に入学者でいけば、定員を超えたところは定員しか採りませんし、定員割れの所は、能登地区を中心にたくさんあります。

公私の割合というか、公立7で私立学校3というような申し合わせみたいなことをやりながら、調整していきたいと思えます。募集定員では逆にうちの方では定数割れがたくさんあるということですし、私立学校は私立学校で合格を出しても公立に受かったら入学しないということもあって、最終的には募集定員というよりも、在籍者数では今限りなく7対3、お互いの申し合わせに近い実態になっています。

(田中教育長)

採決を行う。

(各委員)  
異議なし。

議案第 28 号 募集定員に関する規則の一部改正について（塩田学校指導課長説明）

それでは、資料の 7 ページをお開きください。議案第 28 号の募集定員に関する規則の一部改正についてお諮りするものでございます。提案理由であります。平成 31 年度における第 1 学年募集定員の決定により、石川県立特別支援学校規則の募集幼児・生徒数を変更する必要があるためでございます。

なお石川県立高等学校規則につきましては、今ほど高等学校の募集定員に変更がないということから、改正はございません。今回提案の来年度の募集生徒数につきましては、今般定めた募集定員に基づいております。根拠法令につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 33 条であります。

では、8 ページの「石川県立特別支援学校規則」の新旧対照表をご覧ください。特別支援学校につきましては、義務教育である小学部・中学部を除き、今般定めた募集定員に基づきまして、募集幼児・生徒数を変更いたします。変更となった部分を、太枠で囲んでありますので、ご覧ください。

なお盲学校・ろう学校の専攻科につきましては、近年、入学者が 3 名前後で推移していることから、募集定員を若干名として、表記してございます。

以上が改正点でございます。よろしくご審議をお願いいたします。

（田中教育長）

今ほどお決めいただいた募集定員に沿った形の、事務的な規則の改正でございます。

【質疑】

質疑なし。

（田中教育長）

採決を行う。

（各委員）

異議なし。

## 報告事項 いしかわ産業教育フェア2018の概要について（塩田学校指導課長説明）

報告事項として「いしかわ産業教育フェア2018」について、ご説明いたします。お手元の資料、13ページをご覧ください。このいしかわ産業教育フェアにつきましては、一昨年度に開催されました「全国産業教育フェア石川大会」の成果を一過性のものに終わらせることなく、本県の産業教育のさらなる拡充を図るため、質・量ともに内容の充実を図りながら開催しているものであり、昨年度は多くの来場者にお越しいただき盛況に終えることができました。今年度は、昨年度のアンケート結果等も踏まえて、さらに改善を加え実施することとしております。

以下、資料を基にして説明させていただきます。開催日時につきましては、10月13日（土）9時～16時、会場は、県産業展示館2号館でございます。

資料ページ中程の、「7 フェアの概要」をご覧ください。今年度は、開会式の前の8時50分からオープニングセレモニーとして、今年度の全国高等学校総合文化祭、郷土芸能部門、和太鼓部門において、最高賞の文化庁長官賞を受賞した、県立輪島高校の和太鼓部が、力強い演奏を披露することといたしております。

企画内容につきましては、四つのエリアで発表、展示等を行います。次の14ページ以降の資料で説明いたします。資料14ページをご覧ください。上段に、産業展示館2号館の各エリアの配置をお示しいたしました。真ん中上部の青色で囲まれたステージ・発表エリアでは、開会式や各種発表等を行います。左下のL字型の緑色で囲まれた体験エリアにつきましては、多目的ホールでは小学生が職業体験を行うキッズビジネスタウン、展示館出入口ホール付近には、各種専門部会の体験コーナーを設けました。

右上や右下屋外の赤色で囲まれたところに、販売エリアを設けまして、会場の中央部の紫色で囲まれたところに展示エリアを設けております。右はしの黄色で囲まれたところには、今年度から新たに来場者向けの休憩スペースを設けております。

ではまず、資料ページ中程から記載してあります、ステージ・発表エリアの企画内容についてでございます。専門部会の研究成果発表につきましては、昨年度は各専門部会がそれぞれの専門教育について、全般的な内容を紹介してございましたが、今年度は各専門部において、特徴的な取り組みを行っている学校の内容を中心に発表を行うこととしております。例えば、商業部会では、「観光振興による地域活性化に向けて～七尾城の魅力発見と発信のプロジェクト～」として、七尾東雲高校が発表いたします。

また、資料ページの下に記載してあります、「専門高校等における産学連携人材育成事業」につきましては、「企業や大学等と連携・協力し、地域の創生に貢献できる人材の育成を目指す」ことを目的として、昨年度からスタートさせている事業であり、今年度、指定を受けている10校が、これまでの活動の中間発表を行うこととしております。

内容につきましては、15ページをご覧ください。例えば、大聖寺実業高校は、「IoTによる可視化と地域振興」というテーマで、また小松商業高校は、「観光SNSアプリによる観光地域づくり」というテーマで発表いたします。

併せて、この発表内容につきましては、展示エリアの産学連携ブースで、企画内容や連携先の企業・大学等について、各学校の生徒がそれぞれのブースで、来場者に説明をいたします。また、専門部会ブースでは、ステージ発表の内容を含めて、各専門分野における普段の学習内容を紹介するパネルや作品を展示いたします。

資料16ページをご覧ください。体験エリアにつきましては、専門部会による体験コ

一ナーでは、昨年度よりスペースを拡充しまして、より多くの方々が体験できるようにいたしました。体験内容としましては、農業部会の加賀丸いもマフィン作りや工業部会のオルゴール駒づくりなど、昨年度とは違った体験メニューも用意しております。

またキッズビジネスタウンでは、今年度も、小学生に、看護師のお仕事体験やコンピューターを使った写真入りカレンダー作成などを体験してもらい、仕事の楽しさや働くことの大切さを伝えたいと思っております。

その下の販売エリアにつきましては、このエリアにつきましても、昨年度より販売スペースを広げ、屋内の他に、屋外にもスペースを設け、より多くの商品を販売していくこととしております。生徒が育てたトマトやねぎ等の農産物、生徒が考案した入浴剤、クッキー、生徒が製作した木工製品などの商品も、実習を兼ねて生徒が販売いたします。またキッズビジネス体験として、小学生が各販売スペースで、高校生とともに、お菓子や野菜等の販売も行います。

その下のコンテストについてですが、2階の会議室において、今年度もプログラミングコンテストを実施します。専門高校9校12チームの生徒が、プログラミング技術の正確さとスピードを競うこととしております。

その他、中学生のためのさんフェア見学ツアーを実施し、専門高校の生徒が、中学生の希望に合わせて、しっかりと会場をエスコートし、専門高校の魅力をアピールすることとしております。

フェア当日は、ただいまご紹介いたしました企画を含め、多数の催しを計画しており、主役となる高校生はもちろん、子どもから大人まで、幅広い方々に楽しんでいただける充実したフェアにしたいと考えております。

既にご案内させていただいておりますが、委員の皆様におかれましては、お忙しいとは存じますが、是非、ご来場いただき、高校生の活動の成果をご覧いただければ幸いです。以上でございます。

(田中教育長)

今ほど説明にありましたが、昨年、拡大版第1回ということでやりました。去年いろいろ私も現場に行きましたし、参加した学校からも意見を聞いて、少し改善点として、配置は大きく変えておりませんが、スペースを少しずらしたり、販売エリアを外に設けたり、休憩スペースを設けたり、そういうことで工夫をさせていただきました。また昨年は12月の下旬でした。要は、当初予算で予算が付いて、会場がそこしか取れませんでした。今年は1年前から予約をしておりましたので、10月ということで、時期も本来予定しておりました、やりたかった10月に、今回は設定しております。

昨年は12月にやりまして、たまたま産業展示館で他の行事があまりなくて、専用で私どもの行事をやっていたような感じですが、今年は大きなコンサートも、他の号館であるようで、人出がちょっと変わるかなということは思っています。にぎわいが出るのか、混雑してしまうのか、若干今年もその辺が去年と違うところかなと思っています。

せっかくですから、子どもたちの特徴ある取り組みとか、そんなことをなるべく他の学校にも周知をしたいということで、総花的な部会ごとの取り組みみたいなものを去年発表していたのですが、それをその部会の中で特に特徴のある取り組みをやっている学校の紹介に変えてもらったり、そんなところの内容的な工夫も少しさせていただきました。



【質疑】

(眞鍋委員)

16 ページのキッズビジネスタウンですけれども、小学校 5、6 年生対象ということで、この小学生はどこから連れてくるのですか。それともたまたまご来場いただいたお子さんということでしょうか。

(塩田学校指導課長)

事前の予約制としておりまして、各小学校に公募しまして、7 月の 20 日に締め切りをしたところ、定員を若干上回る 70 名の 5、6 年生が集まっております。そういう形で、既に決まっている生徒さんを中心に、キッズビジネスタウンを開催するというございます。

(新家委員)

質問なのですが、産業展示館は、私が言うと問題があるかもしれませんが、公共交通機関はなかなかないものですか、バスを出したりされる予定はあるのですか。

(塩田学校指導課長)

まず各学校から集まってくるイベントを作る側の方は、各学校にバスを手配しまして、各学校から来るという形です。それからお客さんとしての生徒たちは、金沢駅からシャトルバスをピストン輸送にするような形で、予定をしているということです。

(新家委員)

はい、分かりました。

(田中教育長)

車でいらっしゃる一般の方もいらっしゃいます。

(新家委員)

気になったのが、最後の所の中学生のためのさんフェア見学ツアーがあったので、親御さんが一緒なのか中学生だけで来るのかということもあったので、お聞きした次第です。

(金田委員)

15 ページの、産学連携コースが、人材育成事業と書いてあるからだと思うのですが、この中で小松工業だけが少し異色なのではないでしょうか。他はみんな地域と連携した形で、やっています。人材育成と書いてあるから、小松工業は教育を核とした職業人育成プロジェクト。

(田中教育長)

ここは大学、高等教育機関との関係ということなのです。

(金田委員)

ちょっと抽象的になっているから。

(田中教育長)

具体的な内容を説明できますか。

(塩田学校指導課長)

PBL教育というのは、あまり高校ではなじみのない言葉なのですが、そこにありますように、プロジェクトベースラーニングということで、自ら仮説を立てて、試行錯誤を繰り返して、仮説を立証していく学習ということです。金沢工業大学が、かなり大学として進んだ取り組みを行っております。金沢工業大学が京都工学院高校とも連携してやったり、少しずつ高校の方にもそういう学習を浸透させようということで、力を入れております。そこに注目して、昨年度から小松工業はそういったものにも力を入れてやっているということで、少しずつ中身の方を深くしていくということで取り組んでおります。企業が直接ないのですが、内容的にはこれからの工業教育をやっていく上で、非常に大事な視点の研究かなと思っております。

(金田委員)

そこから今度は地域とか、そういうところへと具体化していくわけですね。そういうものができる中で、そういうところの教育を前段階で行って、それが出玉として、今度地域との関係とかそういう展開になっていくものなのかな。

(塩田学校指導課長)

はい。おっしゃるとおりで、こうした学習を通して、実際に今度物をつくるときに、どういう視点やどういう考え方で物を作っていくか。作る側、それをもたらうニーズ側、さまざまな視点を捉えて、多面的なトライをしていくという学習になっていると思っております。

(金田委員)

はい、分かりました。

(田中教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

人事担当教育次長以外の教育次長及び庶務課長以外の課長の退出を促す。

議案第 29 号 人事異動について

岡崎庶務課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

田中教育長が閉会を告げる。